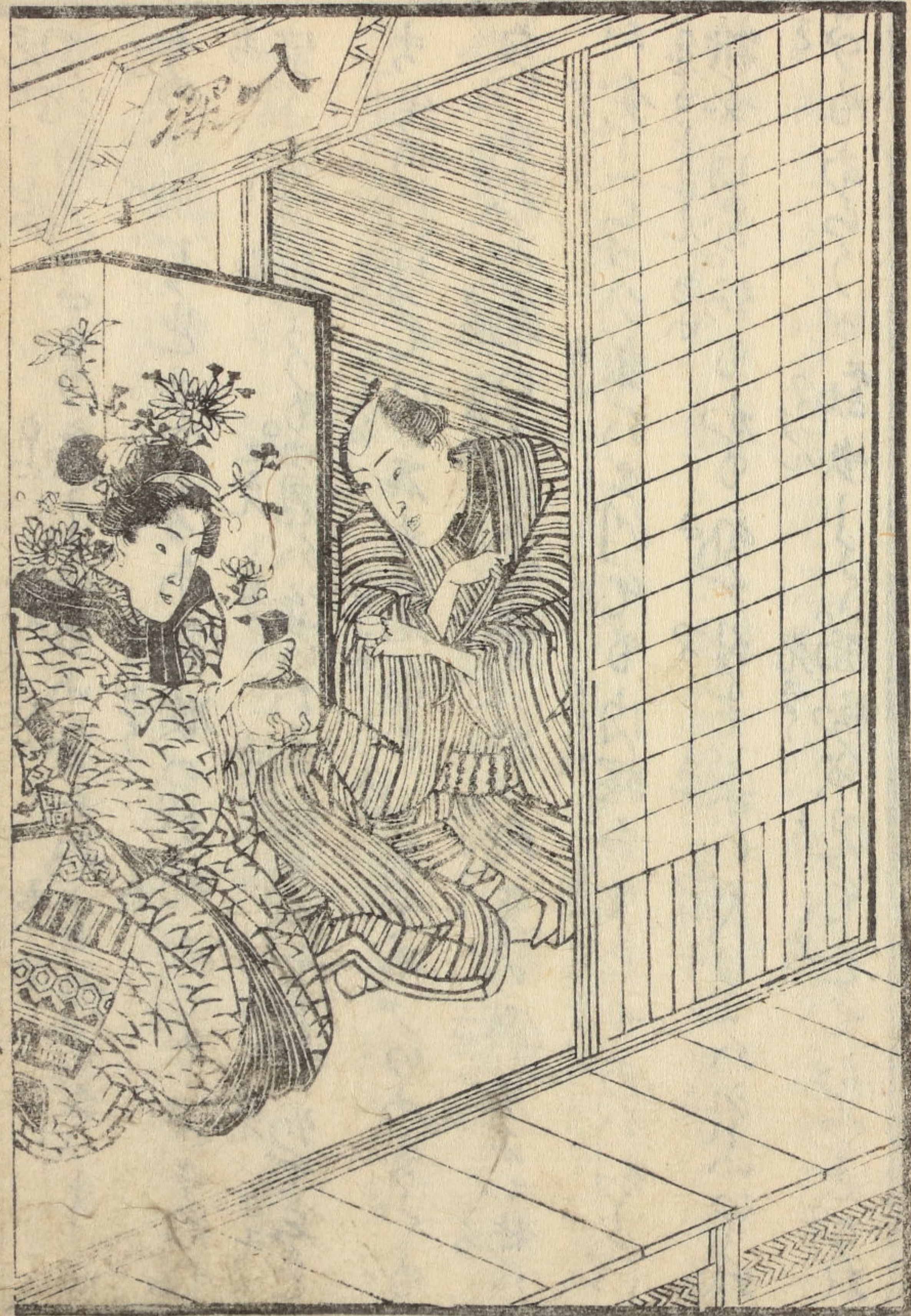


源の心之編
甲

^ 13
2900
8





人深



夕日おもしろい
おもしろい

つと睦まゝく懐くひて一年餘りをこゝけり

園ゆりの梅の影をまがら影明かその人海舟集人の

方へ引さるる古例あり。既小その証極の文を引て予が

著述撰色のあとのり中あの二編小載せられたる小

のりも此書諸事実証考て物々方々ねど自々

その例小懐ひ一のあり

却説翠の目教を修へさうく底の平敷あり。花の平生

小入り一ふがお考ひひふの秋ひ小海も。はあれどく

業とせんとはけあり一と梅并あどあれは延春もあ

とて新ふ二更一と梅ひく。大ーがうあそあそあねふと

はあつたるうひて。葉坊そのゆへ。歩如の。披考のたのびり

の。歩考如の。結成りて。若杉成。漆中。翠を赤黒をふ

彩どり一ふ。その名張も。周縁あり。かくて准坊の抄ひの

りねど翠の一点うけひらむと。あむどの。風ゆ成。准を

ぬののえんき。風ふ人のひよを。文物。そのまゝ。古地

ふえんを。并殺され。ふ物。と。今。今。今。

面目めいめいふ。ふふふふ居ゐて人々ひとびとのこゝろ後指ごさしをさるさるるま。おまおまめとめ是
 腰こし一ひと方かたのこゝろのこゝろ甲斐かい又またままのこゝろのこゝろつつつつをを一ひとくくねね日ひ次つぎ
 送り送り一ひとくくええららああららむむおおのの人ひとのこゝろのこゝろ送送りてておおめめのこゝろのこゝろまま
 ととごごちち唧唧ちちりり泣泣伏伏めめぞぞおおのの夢ゆめももははああつつのこゝろ真まことささりりてて腰こし
 うう一ひとくくああのこゝろ人ひとどどももととれれ然しか法ぽう法ぽうくく徳とくちちららままのこゝろのこゝろああ不ふ
 慮りょのこゝろももああららんんどどのこゝろのこゝろちち小こ怖おそままるる。ままがが驚おどろろここおお
 ををええてて納のう得とくささせんんととそのこゝろのこゝろままああふふ。今いま日ひ翌あしたととううままをを縁ゆかり小こ
 妻つまももななれれくく妻つまとといいふふれれどど。翠すいががんんははくく一ひとくく。始はじめめめ小こ

うう一ひとくくままりりのこゝろままささららおおのの夢ゆめははああつつのこゝろ高たか強かた一ひとくく。野の鈴すずちちららぐぐ
 ああれれ法ぽう業ごうのこゝろのこゝろたたふふららぬぬ女に女に青あおみみ。昔むかしのこゝろ徳とくををままのこゝろ
 換かままりりままれれぶぶ何なに方かたへへのこゝろ流ながししててせせめてて本ほん沙さのこゝろ流ながしし
 徳とくををままるるととそそううけけれれどど。翠すいががままるるととままのこゝろ先まへ次つぎ尋たずねねるる
 小こささのこゝろゆゆ一ひとくく大おほ儀ぎあるる。化け粧ざい坂さかのこゝろああららままのこゝろ如ごとくく名なををたた
 妓ぎ楼ろうあるるがが。眉まゆ目めままりり女に女に抱かかりり入いりりととてて決けつ雨あめをを探たずねねまますす
 一ひとくくのこゝろああままりりてて。翠すいががままるるととままのこゝろ色いろををけけるる小こ早はや急いそ相あ相あ接せつとと
 のこゝろ小こ早はや急いそ相あ相あ接せつとと。けけのこゝろ翠すいのこゝろ化け粧ざい坂さか一ひとくく連つららととててううのこゝろかかの

萬雄が古靈の一回きりぞ二回までも。さふ現れられて示され
実ふあせの因果るれど。道々その逃を果さるるうね
松帰る。名状も無きと吐き出さる。その安出の夕
より。金盛るる方もある。その名をききふ答をけり

第十三回

上の門の十二番あり。侍も全別宿子の院迄は掲げ
真員の牽弘雀の羽りりも更あり。柳より湖月抄を始
とて竹を朝のお夜書。女ひく古今千載集あど。種々の

秋を成つて。海の家のみ。高徳の柳子月琴あど。ま
ひて。見掛つても。擧ぐると。無きや。ゆきまの。ひら
る。屋風のこらへ。お受津の法信。是次。年。柳が。雲。遠。雲。の
材。あ。方。う。て。あ。び。く。法。信。の。遠。雲。年。柳。が。雲。遠。雲。の
不。圖。無。き。や。件。へ。あ。ひ。く。と。互。の。海。く。ま。り。な。れ。ど。その。時。は
ま。く。あ。く。と。海。の。標。の。あ。ま。ひ。より。松。静。小。夜。更
て。次の。あ。の。箱。火。津。ふ。ま。く。と。あ。る。後。執。の。沸。の。ま。ま。く
は。あ。る。る。海。の。あ。が。り。は。あ。る。る。ま。ま。く。

おのれを考ぐてくるとも。種々あるさうありませ
う。サ。一。何ぞ。おのれ。ある。方。何ぞ。の。情。形。の。さ。め
遠く。あ。ら。う。と。い。ふ。と。も。ア。今。も。相。あ。ら。う。毒。こ。り
お。れ。一。水。姓。ま。い。ら。お。り。と。い。ふ。ま。あ。ら。う。文。を。し。て
世。を。一。や。と。い。ふ。再。考。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ
お。れ。沸。ま。い。ら。お。り。と。い。ふ。何。れ。一。の。情。形。の。さ。め。相
遠。あ。ら。う。と。い。ふ。世。の。全。體。の。あ。ら。う。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ
お。れ。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。一。色。の

おのれを考ぐてくるとも。種々あるさうありませ
う。サ。一。何ぞ。おのれ。ある。方。何ぞ。の。情。形。の。さ。め
遠く。あ。ら。う。と。い。ふ。と。も。ア。今。も。相。あ。ら。う。毒。こ。り
お。れ。一。水。姓。ま。い。ら。お。り。と。い。ふ。ま。あ。ら。う。文。を。し。て
世。を。一。や。と。い。ふ。再。考。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ
お。れ。沸。ま。い。ら。お。り。と。い。ふ。何。れ。一。の。情。形。の。さ。め。相
遠。あ。ら。う。と。い。ふ。世。の。全。體。の。あ。ら。う。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ
お。れ。の。さ。め。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。一。色。の

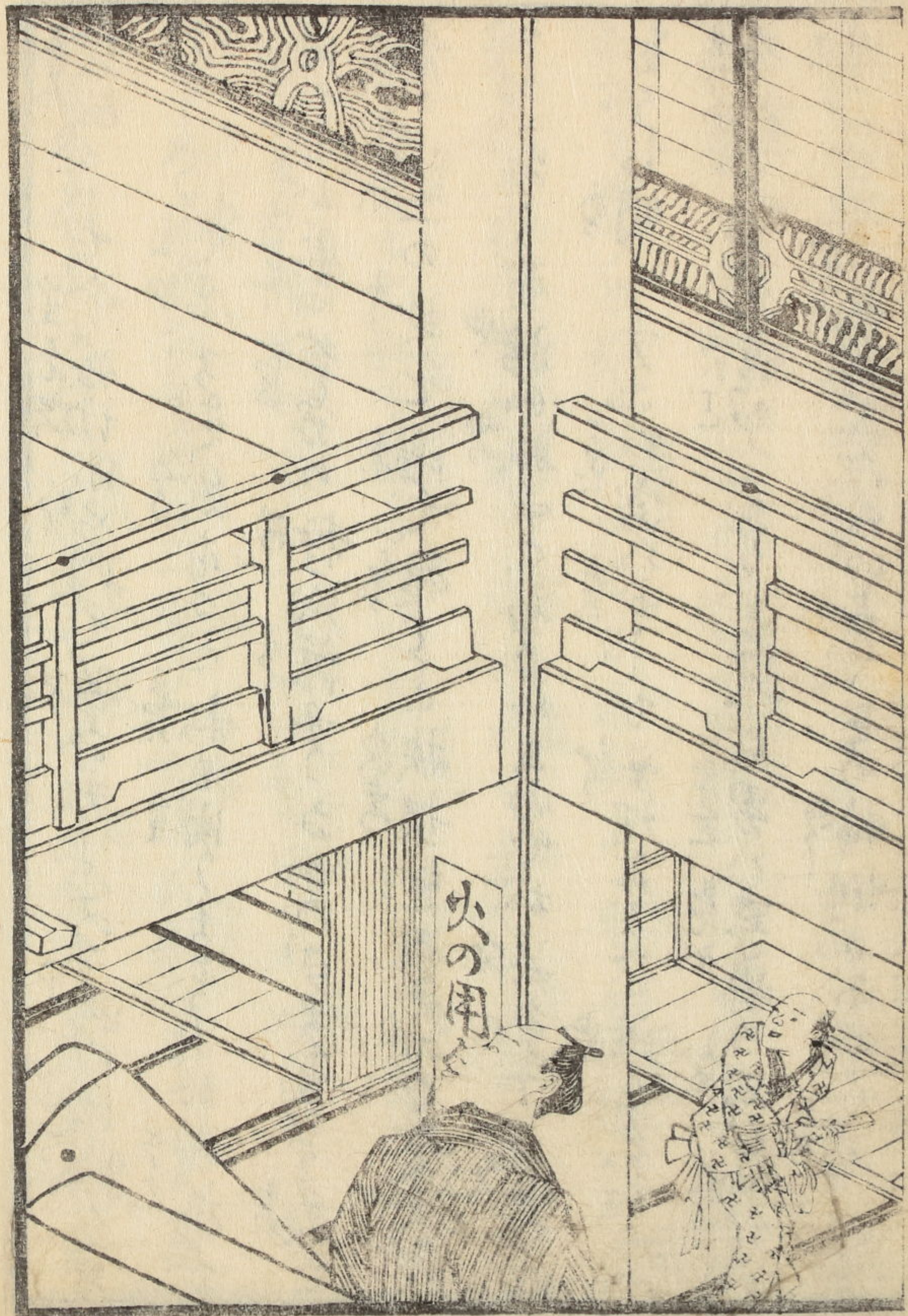
ちよふお中一わや。お肉令さんいりてあまのま〜。
 文よや。おあねのまのまを有り。世後〜。
 惟の眼まねるひあり。軍〜。
 楽〜んで居〜。
 服地よの情〜。お肉令さん〜。
 強念の八幡さん。お肉令さん〜。
 ままを。文〜。
 なるとおの一所お連〜。

千里〜。お肉令さん〜。
 ま。お肉令さん〜。
 ちよふお中一わや。お肉令さん〜。
 文よや。おあねのまのまを有り。世後〜。
 惟の眼まねるひあり。軍〜。
 楽〜んで居〜。
 服地よの情〜。お肉令さん〜。
 強念の八幡さん。お肉令さん〜。
 ままを。文〜。
 なるとおの一所お連〜。



第...三...中

十五



第...三...中

火の用

け 変じて見探りあへとの入証文を入せりしやあ入まほし。
山内令えんを松掛入うと 大を属ぶまろくそのお内
令えんくふ止て貰ひて入実小塞ぐ 接ドらせとえ
未一そのやアあありのひぢり世番ヨ。薬のひらうまんぢら
勝くもわつた。あうー初りの可也のがああてるとく止
あやア長うつつけ。薬でもあうア世小宅(連てりひく。あを
たねての史探りあまうとくサ。あをそ大流小悦立貝。おわら
築紙法とむし。あゆも一知ふ法とんで。築とは一との

がらく。紙層ひらひひ 掃湯心。屋敷をまらうみまを
くまへまアまの都と一坊ぶ子。元小紙終ぶアあ
ませんヨ 自包も紙終ぶアわつたまをて廿世のろくを
松小梅らものぶアわへあ彼ら置田くひら薬
を六鼓き中くとよく人のひ入取ぶがまらうそのやアおね
くぢら ぬくものひわがまのそね小あわはもわ(は方へ店
ひのあやア仔細ありまの帳合えんあがあひして
二圓の紙法とせらる。或ひの紙法をませらるのとりあう

築紙法とむし

二圓の紙法とせらる

己の眼の色が眼の裏のうらみさへをわらう。おれおのりて
 居る世へ。一にそのわア好む人と肥うる男ア。せんか昔男
 親のものをわアあまうせんやれど。女房持とゆきるとそ
 婦もが怖らうさまも。セツ若怪徳も。御川とあるも。不
 女房の婦も。彼極手たまうて死てわアあまうせん。未
 なる成りのと。世も小衆干も女房のちと情合あも
 あつらう。まゝ毒あつるものもあるらう。ふ妙とどくの
 化持屋一はあきりさうなりのぶ。まゝくせんさうね

己の眼の色が眼の裏のうらみさへをわらう。おれおのりて
 居る世へ。一にそのわア好む人と肥うる男ア。せんか昔男
 親のものをわアあまうせんやれど。女房持とゆきるとそ
 婦もが怖らうさまも。セツ若怪徳も。御川とあるも。不
 女房の婦も。彼極手たまうて死てわアあまうせん。未
 なる成りのと。世も小衆干も女房のちと情合あも
 あつらう。まゝ毒あつるものもあるらう。ふ妙とどくの
 化持屋一はあきりさうなりのぶ。まゝくせんさうね

